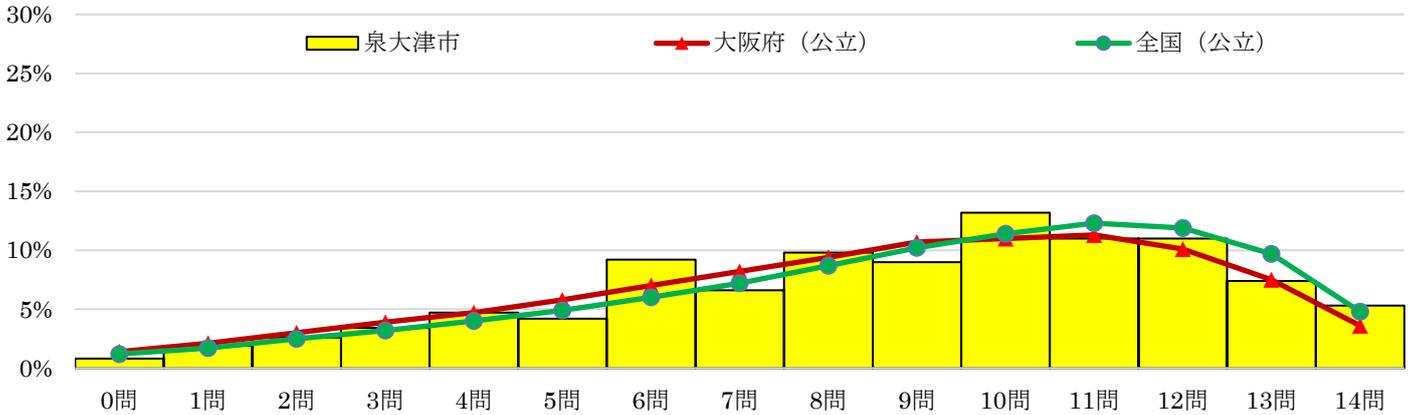


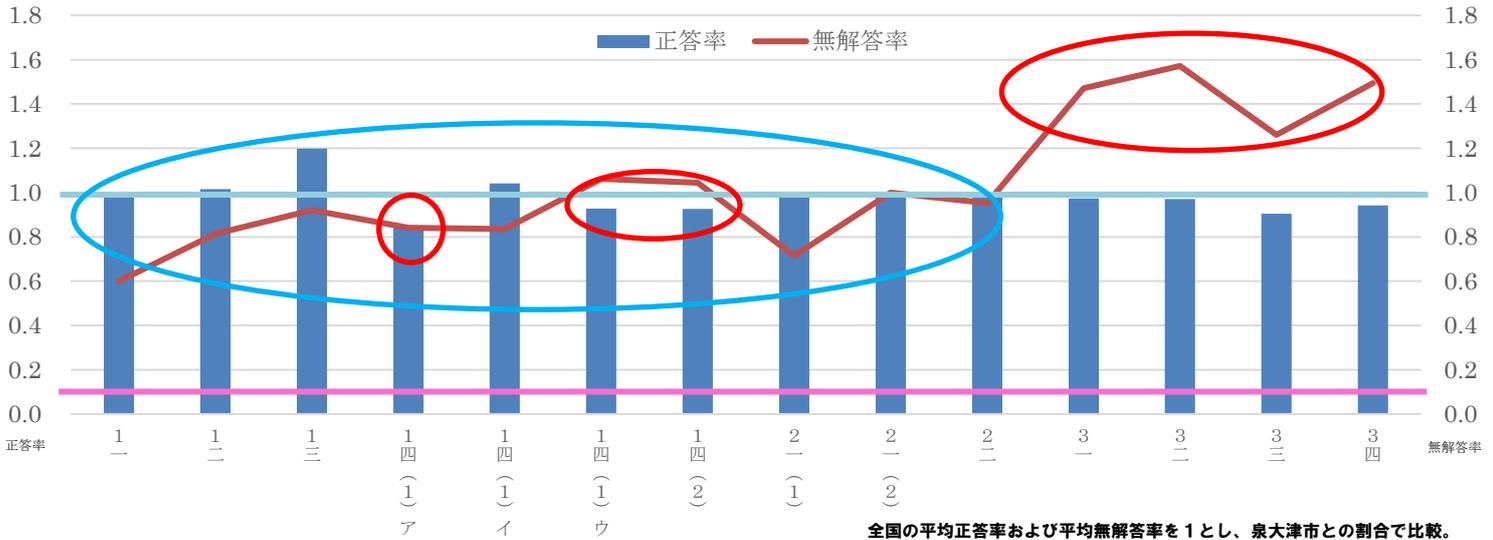
# 全国学力調査結果の詳細

## 小学校 国語

### 正答数分布



### 正答率・無回答率比較



### 国語の具体的な成果と課題

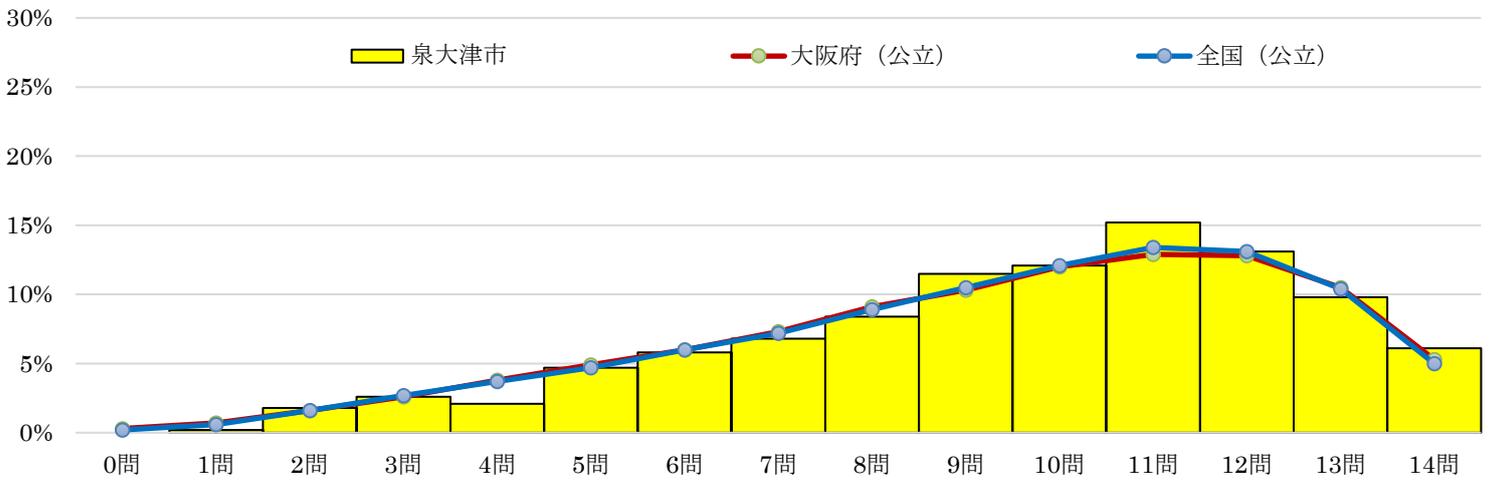
◎無回答率が全体的に低くなっています

▲課題となる問題

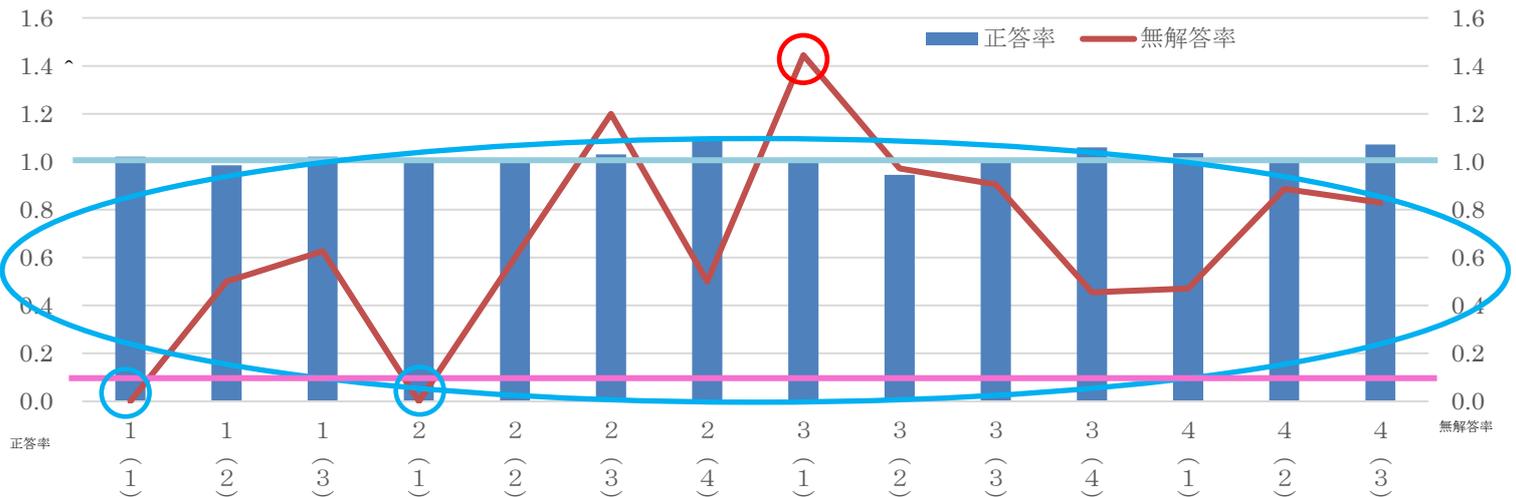
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う (同音異義語を正しく使い分ける) 【1 四 (1)】
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く 【1 四 (2)】
- ・目的に応じて質問を工夫する 【3 二】
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる 【3 四】

# 小学校 算数

## 正答数分布



## 正答率・無解答率比較



全国の平均正答率および平均無解答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

## 算数の具体的な成果と課題

◎無解答率が低く、無解答が0の問題もあります【1 (1)】【2 (1)】

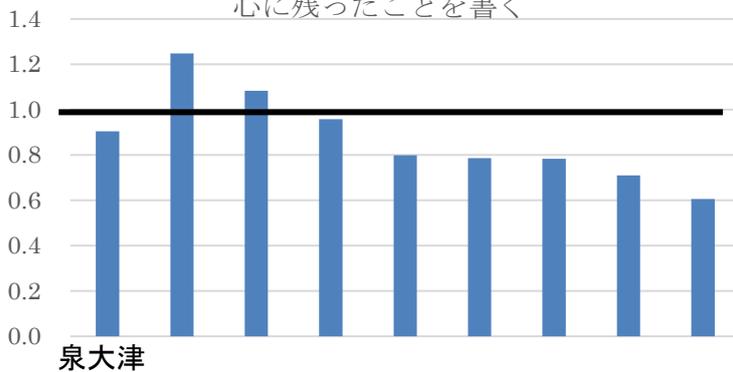
▲課題となる問題

・示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる【3 (1)】

# 小学校の成果と課題

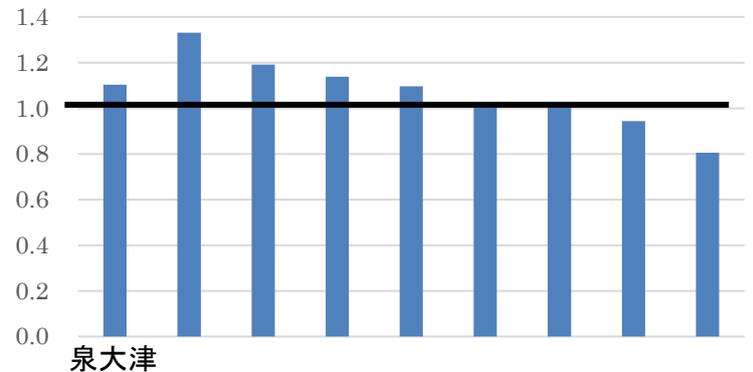
国語 3 (三)

豊職人の仕事への思いや考えに注目して  
心に残ったことを書く



算数 2 (4)

問題  $6 + 0.5 \times 2$  を計算する



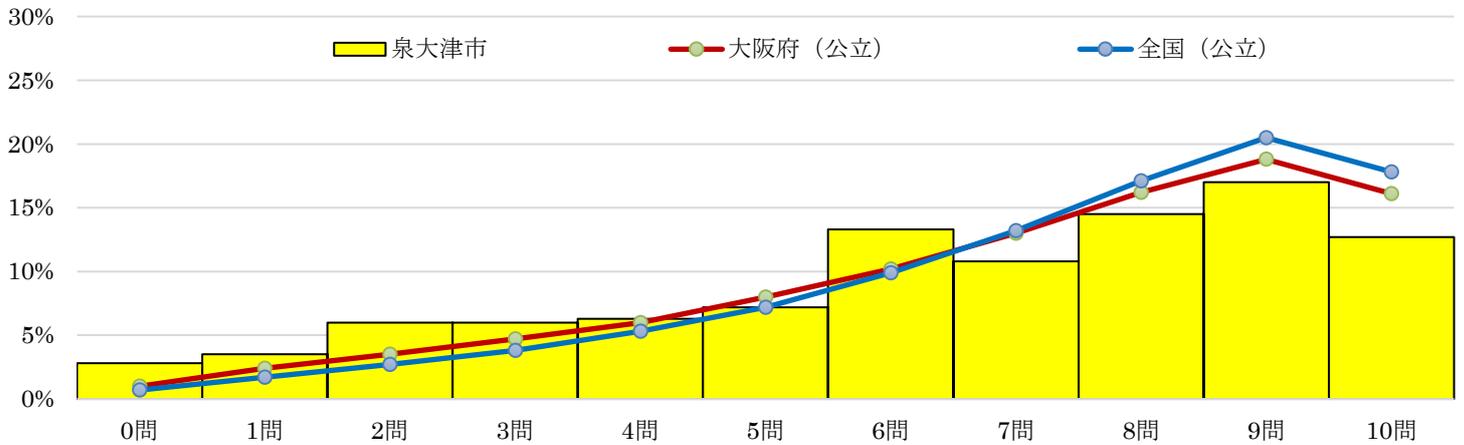
- ・全国の平均正答率および平均無解答率を1とし、泉大津市との割合で比較。
- ・一番左が泉大津市の平均値、右の8校は正答率の高い順にならんでいるため、同じ位置にあっても学校が同じとは限らない。

泉大津市の正答率が全国平均を下回った問題であっても、全国平均を大きく上回った学校があります。また、泉大津市の正答率が全国平均を上回った問題であっても、全国平均をやや下回った学校があります。

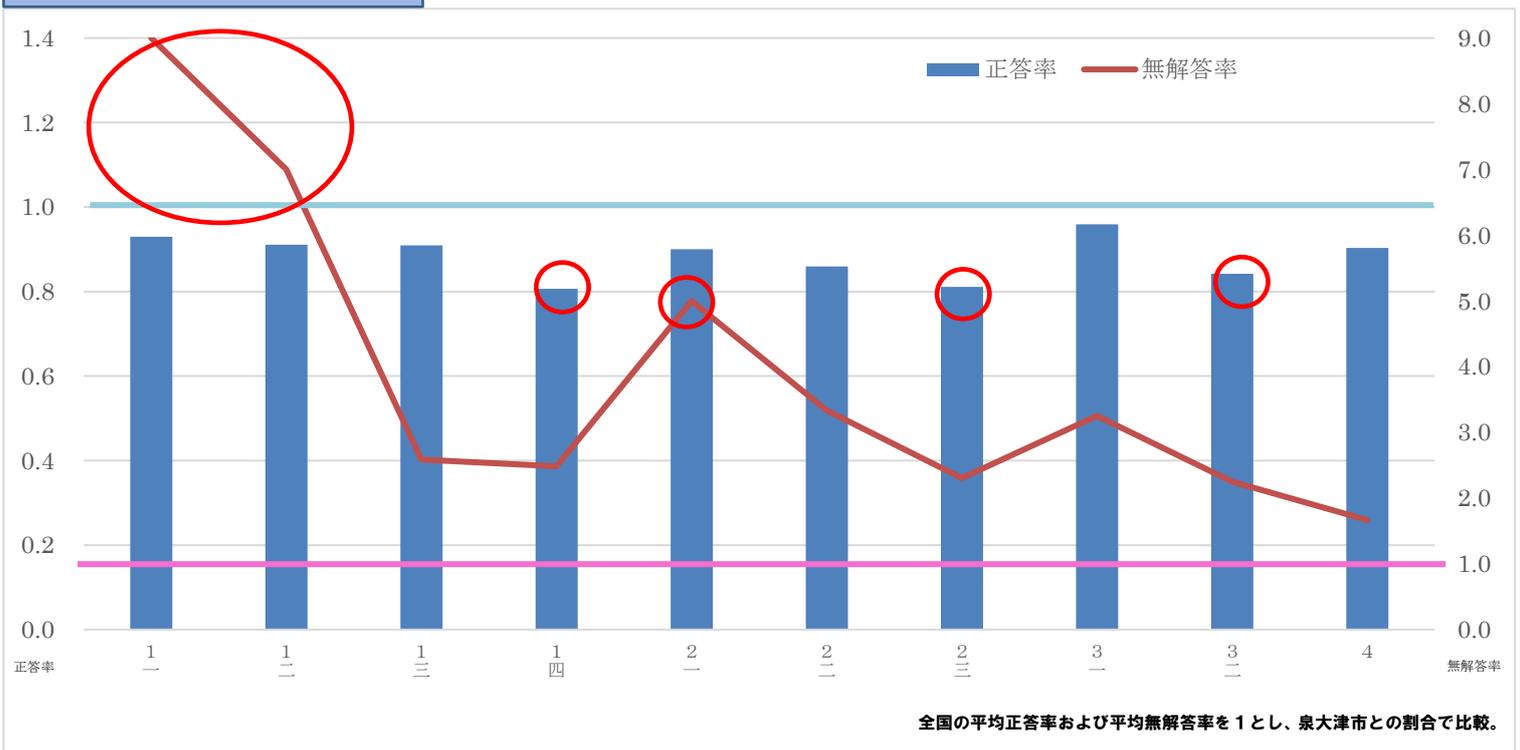
泉大津市全体を見ると、経年の課題に成果もありますが、学校ごとに見ていくと、近年、急に伸びてきた学校、長期に渡り低迷している学校に分かれています。また、教科別に見ても、国語は良いが算数は低迷している学校、算数の計算はできているが記述には弱い学校など、一様ではありません。それぞれの学校で、良かったところには何がプラスとなったのか、良くなかったところには何がマイナスになったのか、それぞれしっかりと分析し、プラスに働いた事例を他の学校でも共有し、市全体で良いところを伸ばしていくことが今後の課題となります。

# 中学校 国語

正答数分布



正答率・無回答率比較



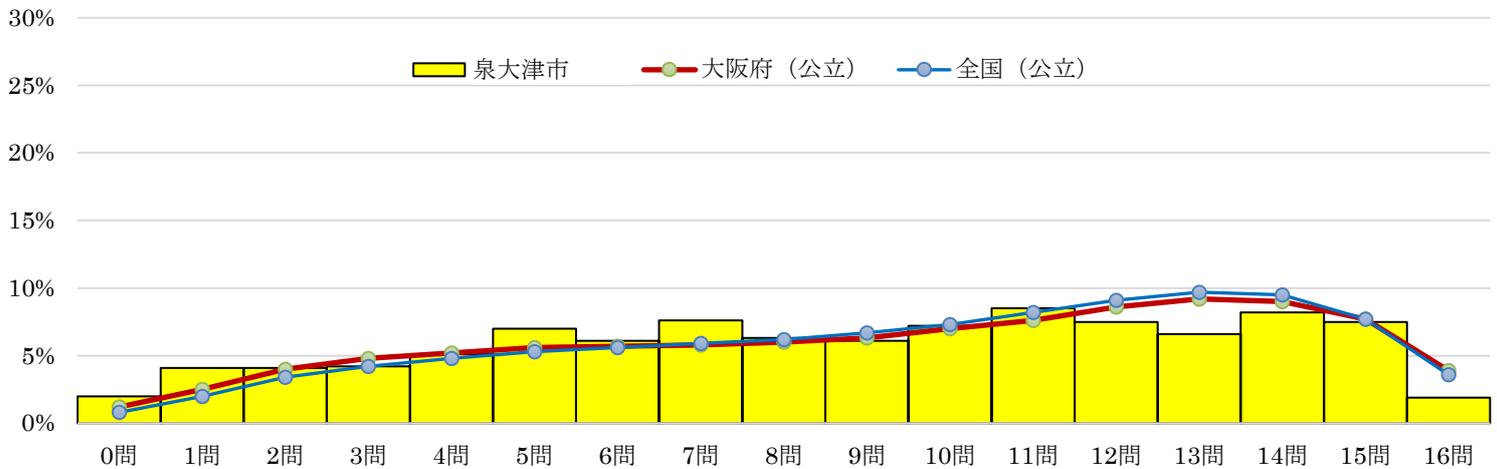
## 国語の具体的な成果と課題

### ▲課題となる問題

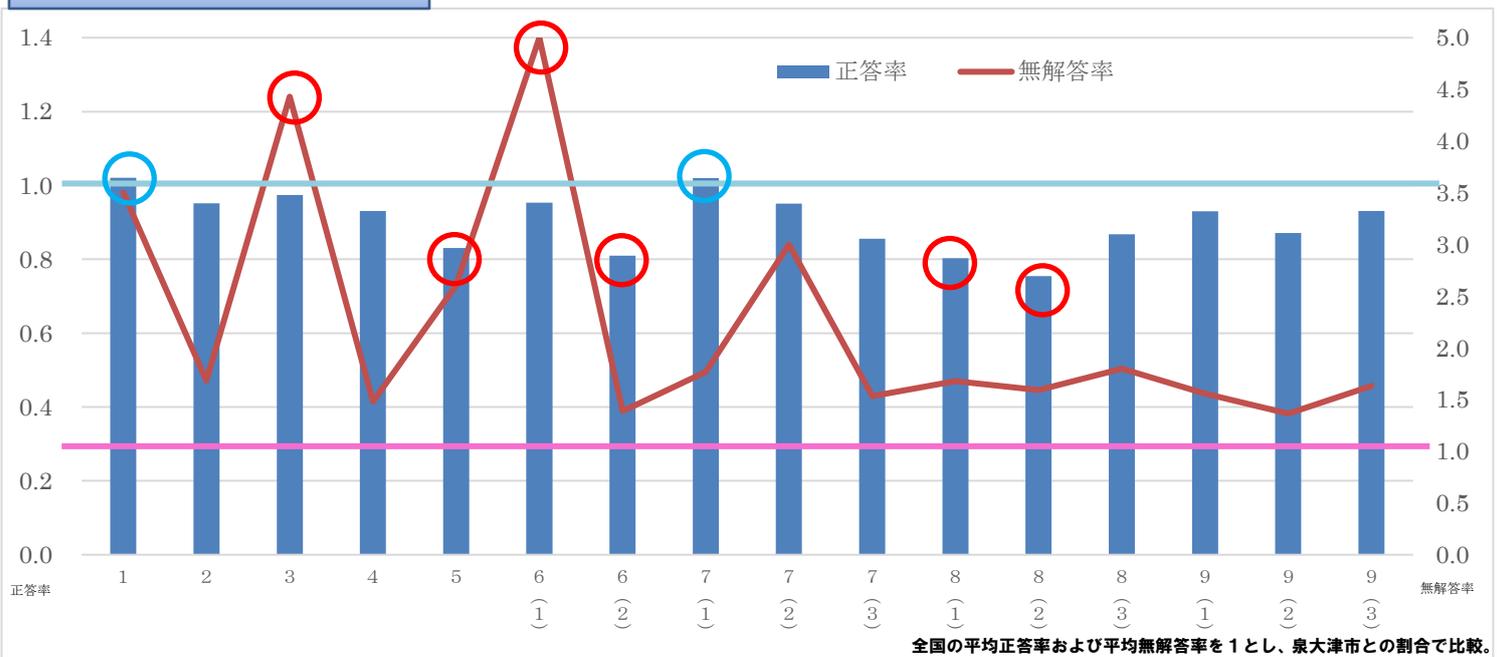
- ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ【1一】
- ・文章の展開に則して情報を整理し、内容を捉える【1二】
- ・封筒の書き方を理解して書く【1四】
- ・話し合いの話題や方向を捉える【2一】
- ・話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ【2三】
- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く【3二】

# 中学校 数学

## 正答数分布



## 正答率・無回答率比較



## 数学の具体的な成果と課題

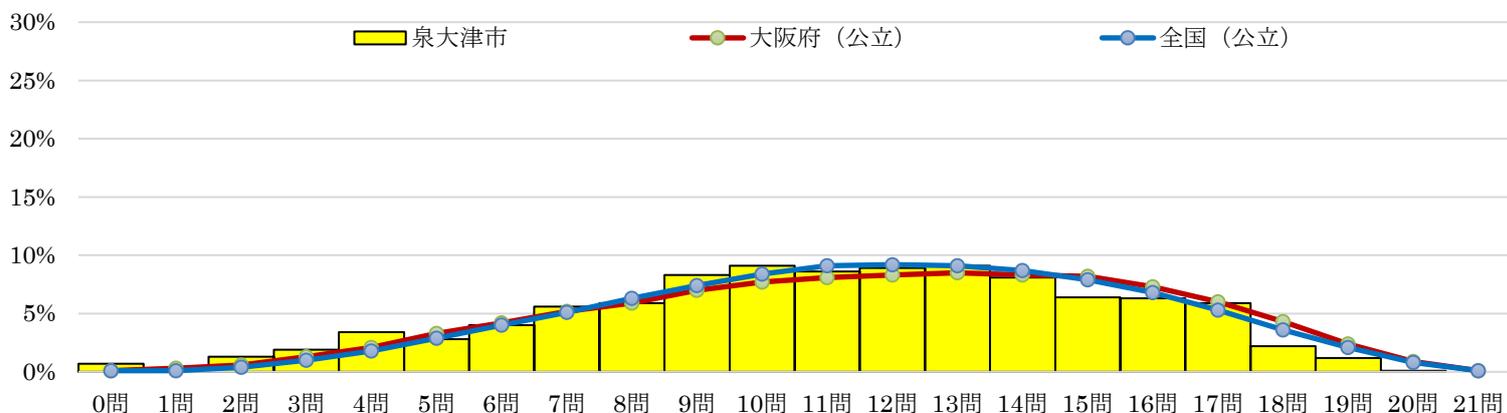
◎全国平均を上回る問題もある

▲課題となる問題

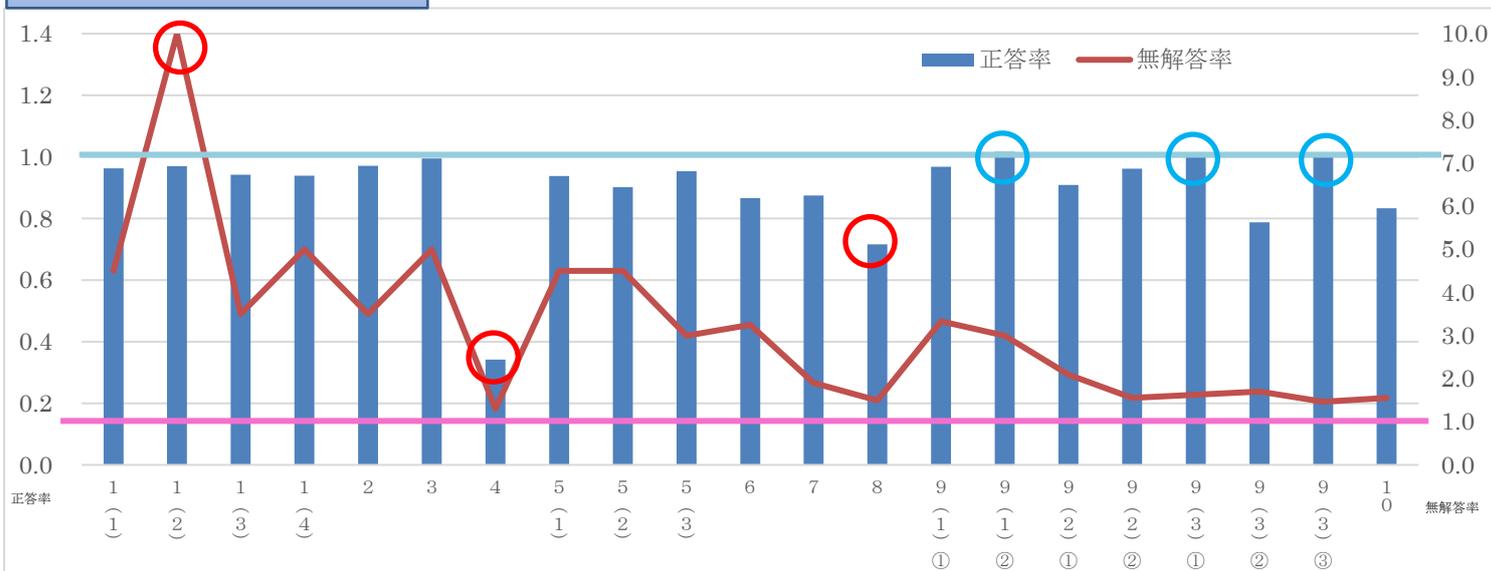
- ・平行移動の意味を理解している【3】
- ・簡単な場合について、確率を求めることができる【5】
- ・グラフ上の点Pの  $y$  座標と点Qの  $y$  座標の差を、事象に即して解釈することができる【6 (1)】
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる【6 (2)】
- ・資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる【8 (1)】
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる【8 (2)】

# 中学校 英語

## 正答数分布



## 正答率・無回答率比較



全国の平均正答率および平均無回答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

## 成果及び課題のみられた問題

◎全国平均を上回る問題もある

▲課題となる問題

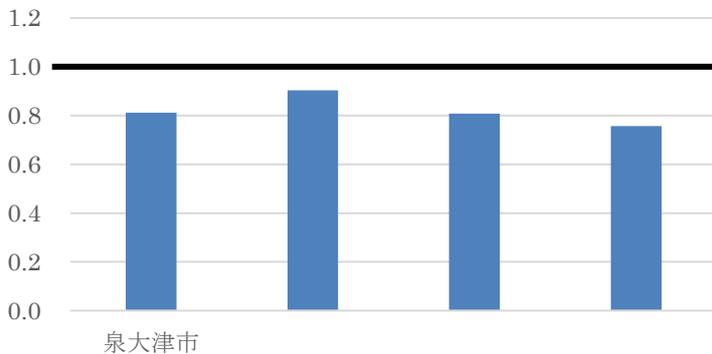
- ・教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる【1 (2)】
- ・聞いて把握した内容について、適切に応じることができる【4】
- ・書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる【8】

問題等については、文部科学省・国立教育政策研究所のHPでご覧ください <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

# 中学校の成果と課題

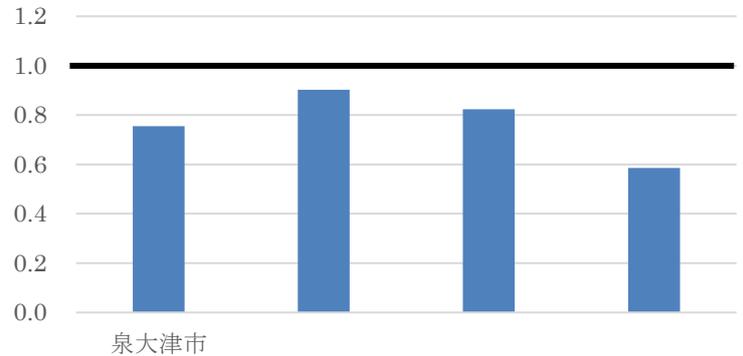
## 国語 23

話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く



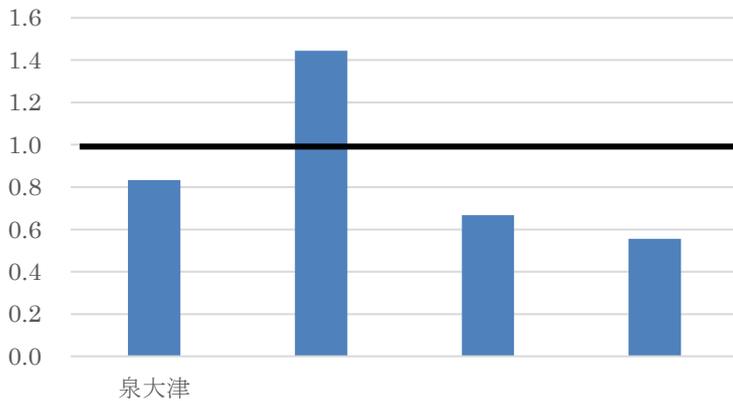
## 数学 8 (2)

「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する



## 英語 10

学校を表す2つのピクトグラムの案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く



・全国の平均正答率および平均無解答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

・一番左が泉大津市の平均値、右の3校は正答率の高い順にならんでいるため、同じ位置にあっても学校が同じとは限らない。

小学校と同じく学校間の差が見られました。3校での比較であるため、最高値と最低値の差は小学校に比べて小さく見えますが、そもそも、正答率が3校とも全国平均値に達していない問題が、国語では10問中8問、数学では16問中10問、英語では21問中11問あり、学校間の差以前に、全国平均値との差が大きいと言わざるを得ません。そのなかで、上記のグラフは特に正答率の低かった問題を抜粋したのですが、英語、数学、国語の順に学校間の差が大きくなっており、他の問題でも同じ傾向が表れています。

例にあげた英語の問題は記述式となっています。国語、数学において、記述式問題の正答率が低かったことから考えると、英語の記述式問題で全国の 1.4 倍の正答率となった 1 校は、英語の取組みに大きな成果があったと言えます。

しかし、全体的に見ると、正答率は全国平均、大阪府平均を下回っており、無解答率も非常に高くなっています。このような状態は平成 28 年度以降続いており、改善傾向を見せた小学校に比べ、中学校は低迷した状態にあります。

英語に伸びがあった学校は、生徒が意欲的に学習できる授業づくりを進め、躍進しました。同じように、国語・数学でも学習意欲が鍵となると考えられます。国語・数学、またそれ以外の授業でも、生徒の意欲を高める質の高い授業づくりをいかに進めるかが、今後の課題となります。